

2008/02/09

会派名 民主党ヨコハマ会

氏名 山崎 誠

## 平成 20 年度予算の焦点 発言骨子

### 予算案に対する各会派の基本的な考え方

#### ・ 直面する課題の解決と未来づくりの両立【テロップ】

( 予算案への評価 ) 開港 150 周年を機に現在の課題解決とともに未来へ道を拓く予算。財政の健全化を進めながら、少子高齢化、教育再生、地球環境問題といった新しい課題に果敢に挑む横浜市を象徴する予算と高く評価している。

( 原稿案 )

私たち民主党ヨコハマ会は本予算案について精査してまいりましたが、一言で評価すれば、財政の健全化を進めながら、少子高齢化、教育再生、地球環境問題といった新しい課題に果敢に挑む横浜市を象徴する予算と高く評価しています。

予算案を見ていく前提として、現在の横浜市民みなさんの暮らしを見ると、こどもから高齢者の方までさまざまな課題や不安を抱えているといえます。少子高齢化、障害のある方の福祉、教育再生、災害への備えなど、どれも個別かつ緊急の対応が望まれるものばかり。一方で、地球温暖化対策に代表されるような地球レベルで、長期的視点から考えていかなければならない課題もある。

このように、直近の市民の皆さんの一つ一つの課題解決と長期のそして地球レベルの課題に、厳しい財政状況の中で、同時に取り組まなければならないところが今の行政の難しいところと考えています。

これに対して平成 20 年度の予算には、身近な課題としては、医師等人材確保対策、公園遊具の問題、街路樹の根上がり対策、引きこもり対策、学校課題対応支援など個々の課題対応に苦心のあとが見られます。あわせて脱温暖化対策、開港 150 周年事業を軸にした未来づくりに取り組んでいるわけで、平成 20 年度の予算はバランスの取れた苦心の作といえると思います。厳しい財政状況の中で、すべての要望を 100% 満足させることは不可能です。そんな中で、どのような優先順位をつけていくか。その一つの答えが今回の予算に示されたと考えています。

当初予想されていた 200 億円の収入不足を 304 名の職員削減などで補い、かつ、市債発行 5% 減を堅持するなど大変な努力の末の予算である点でも高く評価しています。

言うまでもなく、重要なのはこの予算をどのように執行してゆくか、行政、議会、市民が一体となってこの予算を形にしてゆくことが次の大きな目標になると考えています。

## セーフティ都市戦略、子ども未来戦略、いきいき自立戦略

- ・ 医療・福祉・教育、人が主役の街づくり【テロップ】
- ・ 情報分析力と想像力で災害に強い街づくり【テロップ】

(ポイント) 課題は人材。医療、介護、教育、地域づくりといった「人」が要の分野でどうやって人材を確保し育てるか。真の協働による新しいサービス提供の形を実現するか。誰もが安心して存分に力を発揮できる環境整備が急務。横浜市民全体の課題でもある。がんばる「人」をみんなで支える心が通う組織・コミュニティ作りが必要。

大震災、新型ウイルスなどの大災害への備えに課題。想像力、情報収集分析力を最大限働かせて、現実的な準備を整える必要がある。他人事では済まされない、私たち一人ひとりの命がかかっているとの認識を持つこと。

(原稿案)

医療、福祉、教育分野だけでなく、農業、地域経済活性化、自治会などの地域活動、防災など、どの分野をとっても今、求められているのは「人材」だと思います。お金をかけて箱物を作ればいいという行政は立ち行かなくなっています。より現場に密着した、それぞれの働く人たちがサービスを受ける人たちに心を配る行政が必要といえます。

予算上は、医療では医師・看護師確保、福祉では福祉人材緊急確保事業、教育では教師力向上、スクールサポーター拡充などそれぞれ人に重点を置いた多くの施策が見られます。また、こどものいじめ対策としてNPOのいじめ電話相談チャイルドラインへの助成などは金額は少なくとも意味のあるものと思います。子どもの心を捉えている民間のボランティアの活動を支援する、こうした、きめのこまかな予算編成、現場に根付いた予算を大切にしたいと考えています。

災害に強い街づくりについてはまだまだ課題があります。災害発生時の想定が弱い、想定というよりも想像力が弱いと思います。横浜市の地震防災にかかわる情報システムの状況など調査してきましたが、このままではうまく機能しないと思う点が少なからずあります。また、防災訓練等も現実の状況とかけ離れた訓練が平然と行われてきました。この点については、大震災の発生、新型インフルエンザの脅威も現実のものとなっています。マニュアルを作れば安心という体質から脱して、現場の末端までこれで大丈夫か、これならどうだと、念を押すような取組みが求めてゆきます。

## 駅力・地域力戦略、横浜経済元気戦略

- ・ 大都市横浜で実現する個性豊かな街づくり【テロップ】
- ・ 投資を活かす、未来につながる事業支援【テロップ】

(ポイント) 地域の特性に応じた住民主体の街づくりを推進。大都市ヨコハマのスケールメリットと細かなところまで目の届く地域自治のメリットをどう両立させるか。区の独自性、活力を最大限生かした街づくり戦略推進

経済分野は、費用対効果の基準で個々の事業を評価する。一步踏み込んだ支援で効果を出す、行政も経済センスを発揮すること。中小業企業、地元の起業家、農家の支援が、10年後のヨコハマを創る。

(原稿案)

363万の人口を有する大都市横浜市にあっては、この大きさがメリットでもあり、また、デメリットにもなっているのが実態です。

【例えば、新しい取組みを提案しようとする、担当者の口から必ず出るのは「横浜市は大きな都市ですから簡単にやり方を変えることはできない、全市的に妥当な事業でない」と不公平になる」といった言葉です。こういった意識が、変革を妨げている面がかなりあると思います。】

横浜市には言うまでもなく18区あるわけですがそれぞれの特性、個性といったものがある。区の自由度を高め、区・地域の独自性、活力を引き出す施策を打つ必要があります。予算を含めた各区への権限委譲、チャレンジできる組織づくりが必要。それを前提にしつつ、区の行政をいかにチェックしてゆくか、全市として効率化を図るかといったことを平行して検討してゆかなければならないと考えています。こういった点で、本予算では「身近な地域・元気づくりモデル事業」や「地域交通サポート事業」などに期待しているところです。

次に経済活性化策についてですが、経済分野については常日頃、費用対効果を基準に個々の事業を評価すべきことを提言しています。民間の世界では当たり前のことですが、行政はそれを避けて通っている傾向にあるように感じています。例えば、補助や助成を打つ場合、それによってどのくらいの効果が上がるか、端的に言えばどれだけ利益が上がるか、横浜市の経済規模がどれだけ拡大するか、そういった視点をもっと取り入れるべきと考えます。そういう見方をすることで初めて横浜市は何をすべきかも見えてくるものと考えています。一步踏み込んだ支援が実現できるはずで

## ヨコハマ国際戦略、環境行動都市戦略

- ・ 真の国際人・地球人を育てる教育先進都市横浜【テロップ】
- ・ 市民の意識と生活にとどく脱温暖化対策【テロップ】

(ポイント)開港 150 周年の歴史を一過性のイベントに終わらない、ヨコハマならではの市民文化としての継承、発展。子どもたちに根付く真の国際化のための取組みを推進。真の国際人を生む教育先進都市づくり。

脱温暖化は人類全体の最優先課題。環境行動都市ヨコハマがその模範を示す。あえて具体的な効果を求める取組みを。新しいライフスタイルの創造、経済優先の社会的な価値観からの脱皮を実現。

(原稿案)

ヨコハマ国際戦略についてはアフリカ開発会議や開港 150 周年記念事業など、今年から来年にかけて大きな節目になるイベントがあるわけですが、ぜひとも全市的な盛り上がりのある、そして、一過性に終わらない、市長の言うように、ヨコハマの新たな魅力づくりにつながる企画となるように応援したいと考えています。

具体的には、子どもたちの心に残る事業に力を入れていただきたい。たとえば、横浜市に本部をおく国際機関である国際熱帯材木機関 (ITTO) が世界の子どもたちを結ぶ環境教育プログラムを提案しているのですが、こういったプログラムを横浜版教育指導要領の一部に取り入れて、真の国際人を生む教育先進都市づくりにつなげていただきたいと提案しています。

【横浜市は小学校からの英語教育、国際理解教室等に力を入れていますが、大切なのは中身です。英語で何を知り、何を伝えるか、その材料を、英語を使いたくなるきっかけを与えるようなプログラムが是非とも必要です。公立校の魅力作りの観点からも力を入れていただきたいと思います。】

地球温暖化対策については、会派として昨年の決算特別委員会などで集中的に質問提言させていただいてきましたが、本予算案では、脱温暖化対策が大きな柱に据えられており大変満足しているところです。脱温暖化の取組みは、ライフスタイルや社会構造を変革してゆかなければならない難しい課題です。横浜市が市民を巻き込んで正しい方向に導いてゆくことが求められています。難しいからこそ、われわれヨコハマが答えを出す、そういう意気込みで脱温暖化に今後も取り組んでゆきたいと考えています。

【その点で、例えば、水道局が推進している「はまっごどうし」の拡販ですが、ペットボトルで来年度 230 万本の販売を目標にしていますが、この中に是非ともリターナブルな容器を使った流通を検討いただきたいと提案しています。リサイクルを中心にした資源の循環には限界があります。これからは 2R、ゴミの減量、再利用の徹底が必要です。横浜市が社会変革を先導する意味で検討する価値があります。】

## 重点行財政改革に対応した事業

### ・ 行財政改革、行政と市民の理解と協働がかぎ【テロップ】

(ポイント) 大組織横浜市にあって今求められるのは、職員の方が生き甲斐を持って伸び伸びと仕事ができること、失敗を恐れずチャレンジできること、職員一人ひとりのやる気と輝きが新しい市民協働の行政を支えます。

批判からは何も生まれません。市民も改革のパートナーとして知恵と力を結集しなければなりません。

(原稿案)

市職員の方々が生き甲斐と誇りを持って仕事をする事、職員一人ひとりのやる気と輝きが行政サービスを支えていると考えます。他都市の例。

【横浜市は職員定数を絞り込んでおり職員数から言うと日本一の効率を誇っています。裏を返すと職員の方一人当たりの負担は大きいわけですが、そういった状況下で、いかに無駄を省き、必要なことに集中できる体制を作ることがどうしても必要となります。会派ではこういった点を踏まえて、】

この点でトップマネジメント含め、マネジメント層の力量が問われていると考えています。常に変化する環境を見ながら的確な状況判断ができること、一人ひとりの職員のやる気を引き出す、チャレンジさせる組織をつくることなど、まさにマネジメントの重要な役割です。この点を、是非とも横浜市全体の課題として取り組んでいただきたいと思います。

また、この場を借りて是非とも市民の皆さまにもお願いしたいことがあります。行財政改革は行政や議会だけでできるものではありません。市民お一人お一人の理解と協力が不可欠です。市民の皆さまからの批判を受けることを恐れて、萎縮している行政の姿をしばしば目にします。批判から生まれるものは少ないと思います。批判に終わらない助言をお願いしたい。是非とも市民の皆さま一人ひとりがヨコハマ改革のパートナーとして知恵と力をお貸しいただきたいとお願いさせていただきます。

## 各党派独自の注目点

### ・ 行政をリードする議会、確かなビジョンと政策提案【テロップ】

(ポイント) 実に数多くの事業を推進する横浜市。とかく視野が狭くなりがちの行政担当を刺激し導くのは議会の役割。市民の声に耳を傾け、他の都市に学び、横浜市のあるべき姿を市民、行政と一体となり創り上げる、それが今求められている横浜市会の役割である。

(原稿案)

行政に対する要望、市民の皆さんに対するお願いとお話して来ましたが、私たち自身、議員の役割が厳しく問われていることを注目点として挙げさせていただきます。

例えば、議員に与えられた調査研究用の予算である政務調査費について議論されています。議論の焦点は使い道、用途になっています。ですがそれでは不十分です。実際に議員一人ひとりがどんな調査や研究をしているのか、その中身こそが、今、問われていると思います。内容が伴わない活動ではたとえ一円でも無駄遣いになります。また、反対に、中身のある調査研究には相応なコストをかける価値があると考えています。とかく視野が狭くなりがちの行政担当を刺激し導くのは議会の役割。市民の声に耳を傾け、他の都市に学び、横浜市のあるべき姿を市民、行政と一体となり創り上げる、それが今求められている横浜市会の役割であると考えています。自戒の意味も込めつつ、行政をリードする確かなビジョンと政策提案ができる議会を目指して議会改革に取り組みことをお約束いたします。

## まとめ

(原稿案)

平成 20 年度の予算について議論してきましたが、予算案について中田市長は 90 点という点数をつけていますが、私たち党派もこの採点にはついては妥当であると考えています。もう少し高い点数をつけても良いかと思えます。これからの課題は、この予算で提示された事業の期待効果を予算執行にあたってどうやって実現してゆくか、来期末になって何点がつけられるかが勝負だと思います。是非とも決算でも 90 点以上のハイスコアをつけることができるように、ヨコハマのさらなる改革、発展に取り組んでいきますので、多くの皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

ありがとうございました。